

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
射水市 新湊地区(二期)

平成27年4月

富山県射水市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	移住交流促進人口	人/年	974	1,143	確定 見込み	○	あり なし	● -	878	H26年4月	×	評価値の推計では想定していなかった外的要因(周辺市町における類似施設の開設)が発生したため。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	近年、周辺市町において類似施設及び事業が実施され始めたことで、確定値は従前値を下回ったが、滞在施設は市外からの観光客に好評裏に利用されている。
指標2	内川観光船の乗客数	人/年	8,976	18,569	確定 見込み	○	あり なし	● -	13,842	H26年4月	○	臨港道路富山新港東西線事業が完了(新湊大橋が開通)した平成24年度から利用者が増加していることから、更に増加する見通しで評価していたが、完了年に比べ、乗降客数は減少する結果となった。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	確定値は評価値を大きく下回ったものの、海王丸パーク周辺施設の利用者数が増えたことから、乗降客数は増加している。
指標3	内川遊歩道の歩行者数	人/12h	228	245	確定 見込み	○	あり なし	- -	-	-	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	内川の魅力が向上し、地元住民や観光客の歩行者数は増加している。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	海王丸パークの入込客数	人/年	798,400	1,030,300	確定 見込み	/	/	/	1,003,400	H26年4月	/	- <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	臨港道路富山新港東西線事業(新湊大橋の開通)や海王丸パーク周辺での整備により、従前より多数の観光客が訪れている状況である。
その他の数値指標2			/	/	確定 見込み	/	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3			/	/	確定 見込み	/	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容 (都市再生整備計画事業が完了(H25年度)後のH26年度に実施した事業等を記載)	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	内川周辺の賑わいづくりと魅力発信	・射水市新湊勤労青少年ホーム跡地に、観光客用トイレを整備した。 ・また、新湊漁港の昼セリ見学に併せて内川周辺への観光案内を実施した他、内川のまちなか周辺での食べ歩きツアーや食づくり体験教室等を開催した。	・観光客用トイレは、内川や放生津町を散策する観光客が休憩できるスポットとして機能している。 ・食をテーマにしたイベントは参加者に好評であり、口コミもあって参加者は徐々に増加している。	・移住交流滞在施設については、近年、周辺市町において類似施設及び事業が多いことから、他市町との差別化を検討し、宿泊者数の増加を図ることが課題である。
	川の駅新湊の拠点性の向上	・レンタサイクル事業については継続を図り、川の駅周辺及び内川沿川には観光案内サインが設置された。 ・富山湾が世界で最も美しい湾クラブに加盟したことに伴い、海王丸パーク周辺に富山湾岸サイクリングコースが指定され、ブルーラインの整備が行われた。	・休日を中心に富山湾岸サイクリングコースを利用するサイクリング愛好家が、川の駅新湊に訪れるようになった。	・川の駅を住民と観光客双方が集える拠点とするとともに、サイクリング愛好家が利用できるよう施設のPRを実施するとともに、サイクリングコースとの連携を強化することが課題である。
	—	—	—	—
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	空き地や空き家の有効活用	・重点密集市街地整備事業を継続して実施。 ・また、市内の空き家(旧耐震住宅)については解体等に際して、助成を新設した。	・助成に対し、申請は増えてきているものの、現状として空き家の増加には歯止めがかかっていない状況である。	・既存の古い空き家等の更新を推進するとともに、空き家を有効活用した店舗などの移住交流滞在施設との連携方法について検討し、交流人口の増加を図ることが課題である。
	内川周辺と新湊大橋周辺との一体化	・クルーズ客船の寄港を誘致し、クルーズ客に対して内川観光船観光、昼セリ見学などを紹介した。 ・海王丸パーク内にあるみなと交流館を、市の観光案内所として整備した。	・レンタサイクルなどハード面の整備は整いつつあるが、新湊大橋を訪れた観光客が目に見える形で内川周辺へ流れる状況までには至っていない。	・民間事業者と連携し、両地域を合わせたイベント展開や観光客の移動円滑化に向けたサービスの向上が課題である。
	住民に対する防災対策	・市の総合防災訓練を実施するとともに、自主防災組織への活動支援を行った。	・東日本大震災以降高まっていた地震・津波等への住民の防災意識に対して、安心して暮らせる環境が整いつつある。	・地区住民の誰もが安心して暮らせるために、水害や地震など災害に強いまちづくりを推進する。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

しんみなと ちく
新湊地区

とやまけん いみずし
富山県 射水市

平成26年3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	富山県	市町村名	射水市	地区名	新湊地区	面積	451 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度				

目標	
大目標: 内川を中心とするまちなかの魅力向上による、多様な交流機会と安心・安全な暮らしの創造	
目標1	地域資源の有効活用によるまちなかの魅力向上により、観光客のまちなかへの誘導を図る。
目標2	内川周辺や海王丸パークなどにおいて、地区住民が安らぎ憩える空間を整備し、観光客にとっても快適な歩行空間の創出を図る。
目標3	既存のインフラ整備や改良を行うことにより、地区住民の安心で安全な暮らしの向上を図る。

目標設定の根拠	
まちづくりの経緯及び現況	
<p>・新湊地区(旧新湊市)の中心部であるこの地区は、万葉集にも歌われた古くから開けた地で、室町時代には、文化人が集まるなど、古くから歴史と文化が栄えたまちである。また江戸時代には、放生津潟と内川を中心とする海運が発達し、射水地方の要衝としても発達してきた。</p> <p>しかし現在では、モータリゼーションの発展への対応の遅れ、商業を取り巻く環境の変化、さらには、住宅立替えがままならない密集市街地がある為、空洞化と高齢化が進み人口減少が著しい状況である。これまでも中新湊・立町地区で再開発事業及び商店街近代化事業等のハード整備を行ってきたが、必ずしも活性化に結び付いていない。</p> <p>・本市には、年間約80万人の人が訪れる海王丸パークがありながら、訪れた人の市内への還流の様子が非常に少ない状態である。</p> <p>・中心市街地には、歴史と伝統の残る古い街並みが形成され、街を貫流する内川沿いには、貴重な寺院など多数の文化財があるものの、回遊性が乏しいことから、観光客が市街地を訪れることは少なく、このままでは中心市街地の商業環境等は、今後も厳しい状況が続くものと予想される。</p> <p>・平成20年3月に策定された射水市総合計画において、臨海部等の新たな観光資源や拠点の整備、既存資源の活用やイベントとの連携、各種マスメディアを通じた情報発信やPR活動を推進し、広域観光のネットワークを活用して滞在型観光となるよう魅力ある観光ルートの開発を進めるとの方向性が示されている。また、各地域の特性を生かした市民や観光客の交流拠点を設定・整備し、魅力ある個性的なまちづくりを進めるとしている。</p> <p>・当地区においては、平成17年度から「都市再生整備計画(第一期計画)」に取り組み、内川を活かした潤いのある魅力的な水辺空間による、市民・観光客の交流拠点の創造を目標とし、内川周辺の整備を進めてきたが、核家族化の進展や市街地周辺部への移転などにより、中心市街地での居住人口の減少と相まって、市街地の活力低下に歯止めをかけるまでには至らない状況にある。</p>	
課題	
<p>人口減少・高齢化の時代において、地域資源を有効活用して、まちなかにおける交流機会の増大、地区住民が安心して安全に暮らすことができるまちづくりが課題である。</p> <p>・まちなかにおける快適な空間づくりと、高齢化の進行を踏まえた誰もが安心して安全に暮らせる環境づくりが必要である。</p> <p>・歴史的建造物と調和する昔ながらのまちなみの形成や美しい水辺空間における夜間の魅力向上が求められている。</p> <p>・海王丸パーク等を訪れた観光客が内川を中心とする街なかへと還流するような仕組みが必要である。</p> <p>・災害時における避難路の機能強化を図り、日常生活や災害時の動線・空間としての道路整備が必要である。</p>	
将来ビジョン(中長期)	
<p>・射水市総合計画において、市街地を東西に流れ、富山新港と富山湾を結ぶ内川は、人々が集いにぎわい憩える交流拠点として魅力ある水辺空間の創出を進め、活力が満ちあふれる拠点として、個性的なまちづくりを進める上で必要な地区として、位置付けされている。</p> <p>・都市計画マスタープランにおいては、海王丸パークなどからの人の誘導策として、内川兩岸の散策路、特徴ある橋、街灯などの整備及びベンチ、四阿(あずまや)などを設置し水辺に誘う環境整備を進めることにより、まちなかの魅力向上を図るとされている。</p> <p>・富山高岡広域都市計画区域整備、開発及び保全の方針(都市計画区域マスタープラン)では、内川など市街地内の水辺空間の活用を図り、都市における新たな潤いの場を創出するとされている。</p>	

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1 移住交流促進人口	人/年	NPO法人「水辺のまち新湊」が運営している新湊地区の古民家を利用した宿泊施設の宿泊者数	まちなかの魅力向上を図ることにより、交流人口増加と宿泊者数の増加を目指す。	974	19	1,000	25
2 内川観光船の乗客数	人/年	海王丸パークから内川を回遊する内川観光船の乗客数	まちなかを流れる内川の魅力を向上することにより、内川周辺を巡る観光客の増加を目指す。	8,976	19	9,200	25
3 内川遊歩道の歩行者数	人/12h	内川沿いの主要箇所を通行する歩行者数	内川周辺に憩いの空間や歩行空間を整備することにより、まちなかの魅力向上を図り、安心・安全なまちづくりを進めるとともに、まちなかの歩行者数増加を目指す。	228	20	235	25

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(観光客のまちなかへの誘導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海王丸パーク等を訪れた観光客を、内川を中心とするまちなかへ誘導するために、内川に架かる橋、遊歩道の整備を図るとともに、橋のライトアップを行い、ゆっくりと時間消費が出来る回遊ルートの形成を図る。 ・地域資源となる内川周辺の貴重な神社仏閣や曳山展示館、遊覧船を有効活用し、魅力的なまちなかの形成を図る。 	<p>道路事業〔基幹事業、市〕</p>
<p>整備方針2(まちなかの快適性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が暮らしやすいまちなかを形成するために、内川に架かる橋、遊歩道の整備を図るとともに、公園や万葉線駅前周辺を整備し、快適性の向上を図る。 	<p>道路事業〔基幹事業、市〕 公園事業〔基幹事業、市〕</p>
<p>整備方針3(安全で安心な暮らしの向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心して暮らせるまちなかを形成するために、道路整備を行うことによりアクセス性の強化を図るとともに、通学路の整備を行い、子供から高齢者までが快適な住環境の整備を図る。 	<p>道路事業〔基幹事業、市〕</p>
<p>その他</p> <p>○事業完了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>平成17年にNPO法人「水辺のまち新湊」が設立され、内川周辺でイベントや交流事業を行っている。また、射水市や地元関係団体等と連携・協力しながら、県内外から訪れる方々に魅力的な質の高い水辺を活かした「水辺の観光都市」を推進することとし、平成20年に富山県の「水辺のまち夢プラン」におけるモデル地域として選定され、行政と県民との協働による水辺を活かしたまちづくりを短期、中期、長期に分けて計画策定が進められている。</p> <p>平成20年代前半に日本海側最大級の規模を誇る5径間連続複合斜張橋、新湊大橋が完成予定であり、この大橋の完成を地域活性化のための大きなチャンスであると捉え、両埋立地における未利用地の活用と、中心市街地と両埋立地との連携による地域活性化の方策について検討し、臨海部における未利用地の利活用と臨海部と中心市街地との連携やみなとを中心とした新しいまちづくりの指針として、「新湊みなとまちづくり方策」を策定。新湊大橋の完成までを第1段階、完成以降の長期についてを第2段階とし、将来イメージを設定。</p> <p>将来イメージ(第2段階)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①交流人口の視点に立った将来イメージ 内川の景観など中心市街地の魅力を加えた広域観光における宿泊滞在地(海王町)、環日本海の環境研究拠点形成と研究成果を活用する企業の誘致(海竜町) ②定住人口の視点に立った将来イメージ 良好な景観が形成された住みやすい集合住宅地(海王町)、健康・癒し・学術研究施設と連携した高質な住宅地の形成(海竜町) ③臨海部と中心市街地との連携の将来イメージ 臨海部と中心市街地が一体となった観光、憩い・コミュニティ活動の場としての空間機能の強化 <p>○交付期間中の計画管理について</p> <p>交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、まちづくり座談会(内川周辺自治会長15人)や新湊みなとまちづくり戦略会議を通じ、今後も事業の進め方や改善等協議提案を行なっていく予定。</p>	

